

篠山再生市民会議を終えるに当たって

篠山再生市民会議
議長 長峯 純一
委員 ー 同

再生市民会議は、2007年7月、篠山市の財政が破たん目前にあった状況を打開すべく、財政・まちづくりの改革案を議論・提言することを、市長より諮問されスタートした。

それから約1年9ヶ月、当初は、主として財政再建のための行財政改革の議論を行い、徐々に公共施設の管理運営や住民サービスの供給体制へと議論を広げていった。その結果、2007年11月の第一次答申、2008年6月の第二次答申、2008年12月の第三次答申において、行財政・まちづくりに向けて改革を提案してきた。その間、市も、市民会議からの答申を受けて、2008年1月に「篠山再生計画（行財政改革編）」、2009年1月に「篠山再生計画（まちづくり編）」を策定し、行財政改革に着手してきた。

しかし現時点において、われわれに議論を十分しつくしたとの思いはなく、むしろやり残したとの気持ちの方が正直なところ強い。“まちづくり”という大きなテーマに比べて、会議の議論は時間的な制約を受けざるを得ず、また破たん回避の糸口をつける当初3年間という計画を目標に置いたため、議論は限定したものにならざるをえなかった。議論するテーマも市民会議に任され、それ自体が画期的であったが、焦点を定め切れなかった面もある。

しかしそれでも、破たんを回避するための具体的改革案や将来のまちづくりに向けたアイデアという点で、三次にわたる答申では有意義な提言をなしたと考えている。「篠山再生計画（行財政改革編）」に対しては、当面の財政破たんを回避し、時間はかかるものの少しずつ財政再建に進む方向を打ち出すことができた。「篠山再生計画（まちづくり編）」に対しては、この間の市民の不安を軽減しつつ、将来のまちづくりへのアイデアを示した。また一部提言内容は、平成20・21年度の予算編成にも反映されてきた。

しかし、再生市民会議としては、これで十分に議論しつくせたと満足あるいは納得しているわけではなく、さらにより重要なことは、策定された再生計画を画餅に終わらせることなく、いかに実行していくかであるものと、全員が認識している。したがって、篠山再生計画は、策定という第1段階から、実行という第2段階にすでに進行しており、それゆえに第1段階の役割を諮問された市民会議は、その任を終えたとの結論に達した。

第三次答申の中でも強調したが、今後、再生計画の進行管理、評価・検証の仕組みを市民と共に作り上げていくことを要望し、ここに1年9ヶ月の市民会議の議論を終えることにした。

最後に、これまでの答申で言及してこなかったが、今後に懸念される課題、会議で十分に議論しつくせなかったとの思いが残る点をいくつか挙げておこう。

一つ目は、今後の人口の推移とそれに関連した事業や財政状態との関連である。昨年秋に兵庫県が公表した将来人口予測（中位予測）は、篠山市の人口が2050年を過ぎると3万人を下回る規模になるというものであった。日本全国、中山間地域あるいはそれに類する地域では、今後30～40年間で人口が半減するという厳しい状況に直面していく。

篠山市でも「ふるさと篠山へ帰ろう住もう運動」に取り組んでいる。人口の問題は、まちの魅力、産業、公共サービスといったあらゆる問題と直結し、魅力や産業振興の問題は、農業、林業、観光、地域ブランドといった問題とも関連してくる。こうした話題に関連した発言は、市民会議でも度々なされたし、「帰ろう住もう運動」の実効性という問題提起もなされた。人口減少という傾向は、篠山市だけの問題ではないとは言え、それに少しでも歯止めをかけるべく、「帰ろう住もう運動」をきっかけとした人口対策の議論を、引き続き深めていただきたい。

二つ目に、地域自治組織の問題である。第二次答申では、地域の公共施設の管理運営、まちづくりや地域コミュニティに関連した行事の実施拠点として、まちづくり協議会の育成・活用を提言した。地域コミュニティの再生というテーマも、市民会議ではたびたび話題に上がってきた。まちづくり協議会に関しては、現在その立ち上げ、育成の途上にあるが、最終的な地域コミュニティや住民自治の姿についてはまだ見えていない。財政再建とまちづくりの両方に重要な意味を持つ地域自治組織の問題を、引き続き議論してもらいたい。

これまで市民会議でほとんど議論できなかったテーマも、数え挙げればきりがない。先に人口減少問題との関係で指摘した農業・林業等の産業振興や観光の問題、そしてほとんど話題にすることもできなかった医療や福祉・介護の問題、教育の問題も大変重要な課題である。また、図書館の運営体制、今後の支所のあり方、学校統廃合、今後の行政体制・組織体制と必要職員数、水道事業の財政など、多少の議論をしたものの消化不良で終わった問題もある。いずれも、改めて議論する機会が設けられることを要望したい。

築城400年祭や農都宣言をきっかけに、篠山市が財政破たんという暗いイメージから抜け出し、地方再生のモデル・ケースとなる日が来ることを願って、この会議を閉めることにしたい。